



ピース! Peace

Team Shiroyama

Peace 飛び交う、楽しい学校をつくろう!

HP <https://www.nagasaki-city.ed.jp/shiroyama-e/>

令和 6 年 7 月 19 日

学校だより 第 4 号

校長 宮田 幸治

「死ぬな！ 生きろ！ やらかすな！」夏休みの宿題です！

久しぶりの学校だよりです。7月の3連休に生後9か月になる孫ちゃんが家に来ました。家族の中で私にだけはそっぽを向き、近づこうものなら大泣きでした。これも子供が成長する過程…、と教師ぶってみましたが強がりですね。終業式で子供たちにもお話をしましたが、実は、スポーツフェスティバルの後、ひと月近くお休みしていました。かかりつけ医さんに病気を見つけていただき、手術、入院、療養と続いて6月末の教育週間前から復帰しましたが、まだまだ体力が回復していない感じで、なんか宙に浮いた感じが続いています。入院はさほど長くなく、退院した日に一度学校に顔を出しました。すると、放送委員会の6年生の男の子が「校長先生、なんか久しぶりに会った気がします。何かありましたか？」と話しかけてくれました。「病気で入院してたのよ。」と話すと驚いた様子でしたが「早くよくなってくださいね。」と励ましの言葉が返ってきました。管理職の年数の方が長くなり、子供たちと接することが少ない今です。そのような中で「なんか久しぶりな…」と感じてくれたことは大感激でした。校内を歩くと、どの子供もあいさつや会釈をしてくれ、低学年の子供たちは「校長せんせ〜い。」と手も振ってくれます。孫ちゃんにそっぽを向かれても、かわいい城山っ子に癒されて元気充電中です。このかわいい城山っ子が長期休業中は決まりを守り、自分の命も人の命も大切に、2学期の始業式に全員の元気な笑顔を見ることを強く願って、毎回恒例の校長からの宿題を出しました。学校から配付しました夏休みの暮らし方にご家庭での約束事に加え、お話をさせていただきますようご協力をお願いします。

「叱り上手のテクニック」

先輩校長からの教え！
前号からの続きです。

シリーズ3回目、今回は、「叱り上手な教師のテクニックの秘密」についてです。

まずは、『情で叱る』というテクニックです。感情のまかせるままに叱る（というよりは怒る）ことは良くないことですが、冷静に感情的に叱るのです。例えば、他人に迷惑となる言動や他人を傷つけるような言動、自他ともに危険が及ぶような行動をしている子供には「やめなさい。」です。何よりも「制止」することが大切です。ただし、子供の行動を「制止」させ、心を動かすためにはそれ相当のエネルギーが必要です。大人の側の「顔・声・心」等が大きなエネルギーをもっていなければ、子供に真意が伝わりません。「私（親・教師）はそういうことは大嫌いだ、許せない。」という人間同士の感情を伝えます。理屈抜きで直接子供の心（感情）に届くはずですよ。

子供は、自分が愛されていないと感じることがとても不安です。これは、乳幼児期だけの本能ではありません。人は人から嫌われたくないという欲求をもって、ですから自分を支えてくれる人から「嫌いだ」と言われることは、辛くて怖いことです。この時点では「自分がやったことはいけなかった。」というより、「支えてくれる人を怒らせてしまった。」という気付きを生みます。大切なのは、ここからです。子供は「しまった。」とは感じるのですが、それがなぜだめなのか、どれくらいだめなのか、自分がどうすればいいのか…、振り返りも反省も生まれていません。それどころか「この人は怖い人だ。」「だって、～だったんだもん。」「自分はなんて運が悪いんだ。」などと思う子供もいるでしょう。相手が先生だと、自分の言い分だけを強く主張したり、その先生の言うことを無視したり、グループで不満を言い合ったりする姿を見せることもあります。更に大人が「嫌いだ。許せない。」と言いつけると子供は耳をふさぎ、聞く耳をもちません。そこで、叱り上手な教師たちは『知で諭す』のです。続きは次号で……。